

会 議 要 録

名 称	第2回豊橋市地球温暖化対策推進会議
開催日時	令和2年1月27日(月) 午前10時00分から午前11時30分
出席委員数	17人(委員数20人)
出席委員名	齋藤誠一様(生田敬喜委員の代理)、石田正明委員、岩瀬啓子委員、刑部光弘委員、 神谷充委員、河邊光司委員、川西裕康委員、坂井忠志委員、鈴木拓也委員、 高柳行伸委員、滝川浩史委員、東海林孝幸委員、夏目美鈴委員、番場啓泰委員、 小木曾充彦委員、稲田浩三委員、金子知永都市計画課長(古池弘人委員の代理)
欠席委員名	青木良浩委員、富安隆徳委員、大林利光委員
オブザーバー	愛知県 環境局 地球温暖化対策課
事務局職氏名	温暖化対策推進室長／三浦正人 主幹／植田年香 主査／廣瀬克昭 担当／岡村仁美 計画策定委託業務受託者／株式会社オリエンタルコンサルタンツ
議 題	(1)市民・事業者への意識調査について (2)基礎調査結果の総括について (3)第2次地球温暖化対策地域推進計画骨子(案)について (4)その他
議事の概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1)市民・事業者への意識調査について</p> <p>(2)基礎調査結果の総括について</p> <p>(3)第2次地球温暖化対策地域推進計画骨子(案)について</p> <p>(4)その他</p> <p>3. 閉会</p>

第2回豊橋市地球温暖化対策推進会議 会議録

日 時：令和2年1月27日（月） 10時00分～11時30分

場 所：豊橋市役所 東121会議室

委員数：17人／20人

○開会

・豊橋市の温室効果ガス排出量の実績について

委員長：基準年度を含め、算出した数値の根拠の確認を事務局に依頼した。また、集計ミスがあったとのことだが、ミスを防ぐためには、数値の算出根拠を確認するための内部資料が必要ではないか。

なお、会議スケジュールを考慮し、修正がある際は委員長一任として任せていただきたい。

その他、ご質問、ご意見はあるか。

委員：統計等から引用している数値と、按分して算出した数値の範囲は明確に示していただきたい。

○議題

（1）市民・事業者への意識調査について

（事務局から別紙資料に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明について何かご質問はないか。

委員：地球温暖化への関心について、多くの市民が地球温暖化に対して関心を持っているという結論だが、アンケートの回収率自体が3割程度であることから、約6割の市民は関心がないとも言える。この結果を踏まえて計画策定を進めていただきたい。

委員：地球温暖化防止に役立つ取組について、市民の方が取り組む理由は経済的な理由が主ではないか。

委員：自家用車の使用状況について、買い替える年数等、アンケート結果に付随して参考になる情報をご提供いただきたい。

委員：年配の方は、「今より不便になっても地球温暖化防止のために積極的に対策を行うべきだ」と回答している割合が高いが、アンケートからは取組が行われていることが伺えない。積極的な意識を持っているが取組を行っていない市民の行動を促す施策があると良いのではないか。

委員：20代、30代からの回答数が少ないが、アンケートの対象者の抽出方法について年代別の人口割合を考慮したか教えていただきたい。

事務局：アンケートの対象者の年齢は、偏りが無いように抽出をしている。

委員：アンケートの回収率が低いと思う。アンケートを回答することに意味を持たせないと回収率が上がらないのではないか。有効回収率を上げる方法の検討がなかったのか疑問に思う。

- 委員：ごみ減量化の取組状況について、「生ごみ処理機等の利用」「生ごみを肥料として利用」は60%以上が実施していないと記載があるが、豊橋市では生ごみの分別回収を市で行っている。実施率が低いのではなく、現状を踏まえて分析して欲しい。
- 委員：地球温暖化を防止するための対策と生活内容との関係について、選択肢が複合的であり、見方によって結果が変わってしまう。自由記述欄についても併せて分析をお願いしたい。
- 委員：20代、30代の回答率が向上に向けて対策が必要。
市に期待する施策として「公共交通機関の整備や利用促進」が挙がっていたが、設問の順番が誘導的に見える。
公共交通に関する今後の施策の展開については、事業者も含めて検討すべきだと考える。
- 委員：地球温暖化対策は、快適な生活を我慢しなければならないイメージが強いが、経済的なメリット等を提示することで、より大きな効果を得ることができると考える。
- 委員：若い世代への興味関心の喚起が必要である。
- 委員：興味のない人には、どのような施策でも、なかなか興味を持っていただけないため、そういった方の意識をどのように高めるか、検討していただきたいと考える。
- 委員：努力しても実感がないことが問題だと考えられる。削減効果を数値などの目に見えるもので示すこと必要ではないか。また、自由記述に記載されている内容が重要だと考えている。

委員：地球温暖化に関する情報を主に「テレビ・ラジオ」から得ている人が多い結果となったが、これらの媒体は自発的に情報を入手する手段ではなく、関心の低さが伺える。上手い情報の発信方法が必要である。

また、地球温暖化が生活に与える影響について理解していない人が多いのではないか。そういった人に対して上手く施策を行う必要がある。

委員：アンケートの質問数が多く、回収率に影響しているのではないか。回答者の立場に立っていないと感じた。

委員：市民は普段の忙しい生活の中で簡単な対策しか取り組めないと思う。市民が普段から取り組みやすい取組の周知から始め、市民の環境に対する意識を少しずつ改善していく必要がある。

アンケートの結果を上手く啓発に活用していただきたい。

副委員長：アンケートにご回答いただいた人は地球温暖化への関心が高い市民と想定されるが、その中でも8割の市民が地球温暖化を防止するための地域での取組に参加したことがないと回答している。市民の意識をどのように地球温暖化対策に集めるのか、検討していく必要がある。

(2) 基礎調査結果の総括について/

(3) 第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画骨子(案)について

(事務局から別紙資料に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明について何かご質問はないか。

委員：地球温暖化という危機に対して市民の意識が低いと思う。計画策定のために集めた情報から、市民の危機意識を高める情報の周知方法を検討していただきたい。

委員：公共施設への太陽光発電の設置容量について、数値だけ記載してもどの程度の大きさか判断が難しい。県の平均値や市の電力量に占める割合、他自治体との比較等を記載するなど、分かりやすく示していただきたい。

委員：各主体の役割・行動が数値でわかるように記載していただきたい。市民・事業者の行動による温室効果ガス削減への寄与度が数値でわかるようになることを期待する。

委員：市がやるべきことは課題として整理されているが、市民・事業者にいかにして地球温暖化対策へ協力していただくのか検討していく必要がある。

委員：特に若者に向けて、地球温暖化対策を自分の問題として関心を持つための対策が必要だと考える。

委員：国以上の温室効果ガス排出抑制を目指しているが、各部門においてどのような目標を立てるのが重要となると思う。

委員：産業部門の排出量に占める割合が多いため、経済的活動を低下させないように、産業部門の排出量を抑制する施策が必要ではないか。

委員：公共交通については、利便性向上策を実施するのは容易ではないので、市民の方がすぐに取り組みやすい自転車の施策も考えてく必要がある。

また、アンケートについては、各世代が何に関心があるのか年代ごとにクロス集計を行い、課題を抽出してはどうか。

委員：基礎調査結果の総括と「重点的に取り組むべき課題・検討事項」の因果関係まだ明確でない所がある。

各部門の目標を明瞭に立てるのが重要だと思う。また、目標の設定の際には、根拠の1つとして、近隣の市町村の二酸化炭素排出量等を参照して設定していただきたい。

委員：若者の意識啓発が必要だと思う。豊橋市の地域性を考慮して市としてどのような対策ができるのかを検討して計画を策定していただきたい。

委員：Z世代（1995年以降生まれのスマートフォンネイティブ世代の若者）は地球温暖化に敏感な世代と言われている。SNSの活用などを検討してはどうか。

国以上の温室効果ガス排出抑制を“売り”とすべく、豊橋モデルと呼べるほどの実績を残すことを目指してはどうか。例

えば、生産性を上げながら、温室効果ガス排出量を抑制するために、事業者や個人に対しての認証制度や受賞制度を検討してはどうか。

委員：電気自動車は一般的にまだ価格が高いイメージで、通勤で使うのは難しいと思う。通勤時に人が集中する工業団地などにおいてバスの便数を増やす、価格を低下させる等の対策を検討など、公共交通機関を手厚くする施策を検討してはどうか。

委員：1人でも多くの方が実施してくれる取組を検討して、気運を高められないか。

委員：図を多用したポスターなど、分かりやすい周知方法を行っていただきたい。

若い世代にも会議に参加していただき、若い世代が取り組みたいと思える施策の検討のために意見を貰ってはどうか。

委員：今年の暖冬において農作物の収量増加、品質低下が起こっており、温暖化の影響に対する対策が分からないと農家の方々から声が挙がっている。

1日自動車に乗らなかったらどの程度CO₂が削減できるのか等、数値で効果が分かると良いと思う。

若い世代に向けたポイント制度の対策などは有用であると考える。

委員：豊橋の交通は、自動車分担率が高いことが最も大きな特徴と

して挙げられる。その要因も併せて整理して欲しい。
課題・検討事項について、地域別、年齢別に整理してはどうか。

副委員長：市において温暖化に関する出前事業などを行っている。同様の取組を行っている県と連携して取り組むことも検討してはどうか。

委員長：議題等は以上である。本日の会議全体を通じて何かご意見等あれば2月14日（金）までに事務局のほうへいただければと思う。本日は議事の円滑な進行にご協力頂きありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しする。

○閉会

事務局：委員長ありがとうございました。これで推進会議を終了させていただきます。委員の皆さまありがとうございました。

以上